

5/1 ルカの福音書 5章 27-32節 「主が御声をかけて下さる」

小池 宏明 牧師

今日は、主イエス様の弟子たちの中で、マタイの福音書をまとめたマタイに注目する。

*マタイとは

アルパヨの子レビの別名がマタイだが、彼は取税人だった。ローマ帝国に支配されていたユダヤとガリラヤ地方において、取税人はユダヤ人から「罪人」や「盗人」扱いされていた。取税人が、偶像や皇帝を礼拝するローマ人の手先になって税金を集めていること自体が、人々には受け入れ難いことだ。加えて、彼らはローマの支配力を振りかざして多めに集金しておいて、ローマに納めた税金との差額を着服していることも非難の的だった。そんなマタイに、転機が訪れた。

*主の召命とマタイの応答

ある日、主イエス様は、収税所に座っているマタイに目を留められた。そして、いきなり「わたしについて来なさい」と御声をかけられたのだ。そうしたら、マタイは、「…すべてを捨てて立ち上がり、イエスに従った。」とある。並行記事があるマタイとマルコの福音書にも、なぜイエス様がマタイに御声をかけられたのか、マタイがどうして即座に応答してイエス様に従ったのか、その理由について記録していない。ただ、マタイがイエス様の召命に応えた後、彼は自分の家で、イエス様のために盛大な宴会を開き、取税人仲間をはじめ、大勢の人々を招いている。その姿を見ると、主イエス様にお声をかけて頂いたことやイエス様に従って行く決意ができたことを、大喜びしていることが分かる。

*主が御声をかけて下さる喜び

主イエス様は、今も、変わりなく、私たち一人ひとりに御目を留め「わたしについて来なさい」と御声をかけて下さるお方だ。羊飼いに例えられる大牧者イエス様は、誰が自分の群れに属する羊なのかよく知っている。そして、御声をかけてくださり、羊たちは羊飼いであられるイエス様の御声を聞き分けて、主に付いて行く。こうして、主に呼び出された群れとしての教会が、かたち造られてきた。主イエス様が御声をかけて下さる、そして招いて下さることこそ、最高最大の喜びではないだろうか。今週も、主イエス様の眼差しが、私たち一人ひとりに向けられていることを覚えて、感謝しつつ、旅立とう。